

第4回定例会

町長より行政報告がなされました。
(内容は要約して掲載しています。)

・町長行政報告

町長行政報告 (要旨)

農業情勢について

成長期における水不足や日照不足による育成の遅れが心配されたが、その後大きな災害もなく穏やかに推移、その結果、農業全体では、農協の平成20年度農産販売計画15億5千万円に対し、実績では15億1千万円程度となる見込み。南瓜の青果率低下と安値傾向が要因となった。

畜産関係は、配合飼料等の価格高騰など不安定な状況の中、個体販売は大きく値を下げ、低価格で推移。生乳生産においては、離農者の増加による減少分を各農家の生産努力で全体量を補うべく期待したものの、目標4万8千トンと大きく下回る4万5千トンとなることから、来年度生乳生産確保とも絡み今後の増産に期待したい。

酪農畜産は、本年度販売額

60億円の計画に対し、実績では55億9千万円と大きく減少し、農業販売額全体では75億7千万円の計画に対し、71億1千万円と大きく落ち込む結果となりました。

農業生産の落ち込みに加え、肥料、燃油価格の高騰などで農家経営を圧迫していることから、国や道からの対策に加え、町独自の支援対策として、農協が創設する農家経営維持対策の長期資金に対する支援を実施すべく取り進めております。

漁業について

外海ホタテ漁業は、本年9千600トンの計画でスタート、水揚げは計画達成を見込めたものの乾し貝柱生産などで、サブプライムローン関連の影響を受け1億2千万円の損失を受けております。

養殖ホタテ漁業では、昨年の斃死と成長不良のために3年貝の出荷量が減少し、昨年の生産高5億円を大きく下回る2億9千万円の水揚げとなる見込みです。

養殖力キ貝は、昨年並みの

平成20年度は農業、漁業とも厳しい結果に！

生産高となる見通しです。

サケ定置漁業は、来遊予想を大きく外れ、昨年漁獲量の45%減、水揚げ額35%の減となり、ここ3年間の最低記録。この結果、総水揚げ額は昨年より3億円余り減の23億円弱が見込まれています。

町有林事業の進捗状況について

造林、除伐、下刈、間伐、林道整備、素材生産の各事業は、全て予定通り完了です。

公共事業の執行状況について

今年度町が執行する工事・委託関係の47件の事業が発注され、契約金額は7億3308万円となっております。

道管土地改良事業は、新規の中山間地域総合整備事業さるま地区が着工、草地の更新事業、浜幌地区営農用水事業工事なども順調に推移しています。

佐呂間厚生病院の平成19年度経営に係る損失負担について

19年度分からは全額自治体負担となることから、確定損失分(赤字分)5253万円を修正予算に計上するものであり、病院の経営努力で当初より567万円が圧縮されました。

なお、厚生病院などの公的病院経営維持のため国による財源措置が決定し、本年より特別交付税へのルール化がなされております。

湧網線(網走バス)の廃止について

昭和62年以来、年々、利用者の減少による経営負担が増大したため、湧網線交通対策協議会において協議してきた結果、平成22年度をもって路線の廃止が決定、現在の北見バス路線についても同時期の廃止に向け検討中であることから、廃止後は、先に住民説明した町単独での「(仮称)佐呂間町ふれあいバス」の運行による新たな交通体制を進めて参りたいと考えております。